

AJU

コンビニハウス

会報

編集/コンビニの会事務局

連絡先/〒452-0822 名古屋市西区中小田井 2-431

TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

コンビニの会

定価/150円

昭和54年8月1日第三種郵便物承認

第133号



レストランで興行されるアプサラダンス 後ろはアンコールトムのレリーフを模した物

アジアの笑顔に学ぶ

写真家 長谷川 友子

突然、海外旅行に行く事になった。アンコールワット(カンボジア)とホイアン(ベトナム)へ。1週間も経たないうちに出発。今回は、知人の旅行に乗った旅。アンコールワットは、修復の工事が続いていた。正面ゲートの長い石の道は塞がれて、隣に作られたプラスチック製の浮橋を渡った。15年前に来た時、石の橋を渡った事が得したような気分。ガイドの話から「アンコールワットは、フランス人に発見された」と世界中に発表された。しかしカンボジア人は、みんな知っていた。そして、宝石などが埋蔵されている工事箇所には、作業に当たっているカンボジア人の入室が禁じられた。アンコールトムは大きな仏石の顔が有名だが、「アンコールトムの壁面のレリーフは、12世紀後半の歴史や生活がすべて描かれている」が印象に残った。

(次頁へ)

ホイアンは、毎月行われる満月の日の提灯祭りへ。しかし、5月の満月の日は特別で、遠方からも大勢の人がやってくる。「日本人橋」と呼ばれている橋があり、提灯やベトナム食で有名なフオーという米粉のラーメンも、日本人が伝えたいらしい。ベトナムのガイドが、自分の事を話してくれた。「大学受験に失敗して、彼女に振られ自殺を考えた。でも、両親が『あなたの後ろには、私たちが付いている』と言ってくれ、それからたくさんの本を読んだ」。彼の口から「人間万事塞翁が馬」「輪廻転生」などの人生訓が次々と出てくる。

彼は日本企業で働く事は考えず、フリーのガイドの立場を選んでいく。機会があれば、もう1度会ってみたいと思う青年だった。



世界遺産 タプロームにて

雑記 ごまめの歯ざしり

やっぱり新聞

この春東京の高校へ進学した娘は、家では結構新聞を読んでいた。でも一人暮らしでは時間も無いし、ニュースはスマホのライン等で読むので新聞は要らないと言って取っていない。しかし高校でのテストで時事問題が出るとなったら「全然わからない！」と電話してきた。そこでやっぱりせめて1面だけでも毎日読むべきだとなり、それ以来、毎日新聞を写メしてメールする日々となっている。

新聞の内容をスマホで読むことは可能ではあるが、わざわざそのページを開けないと読まない。そう思うと毎朝配達される新聞は、テーブルの上においてあれば、自然に目に入って来ているのだと思う。ご飯を食べたり、歯を磨く何気ない時間に家族で話題にして話したりしていたことは、とても貴重な情報となっていたのだと思った。

また最近の中学校では辞書をほとんど使用しないとのこと。高校でも昔ながらの辞書ではなく「電子辞書」を使うことも多いと聞く。新聞や辞書は、読もう（調べよう）とする事柄以外でも、パラパラめくる時に意外な発見があり、全く興味の無いことや偶然の出会いによって世界が広がることも多くあるのではないだろうか。そのような経験がなくなっていくことは、自分だけの狭い世界や価値観になってしまい、物事の考え方やコミュニケーションを取る時に偏っていくことにつながるのではないかと思う。

またもう1つの新聞の大きな役割。それはスパイクが濡れたり汚れた時に新聞はとても役に立つこと！デジタルの時代になってもやっぱり新聞はすごい！と思う。

(会報委員 鈴木 奏子)

平和をつくるために

〜今、憲法を学ぶ〜

平成30年5月26日 全職員研修

日本国憲法を学ぶ意味

コンビニの会 理事・エゼル福祉会 評議員

宮川優子

今回の全職員研修では中川先生に日本国憲法の平和主義についてお話をいただきました。基本的な人権が尊重された障害福祉制度が成り立つためには平和がそもその大前提です。職員が国民の一人として憲法を理解することは、労働者の権利向上だけでなく福祉制度と自分の立場を明確にします。職員の感想からわかるように様々な気づきが日々の仕事の質の向上につながることでしよう。

さて、私は30年近く予備校で政治経済を教えています。残念ながら受験生には世界史や日本史に比べて興味が持てないなどの理由で受験科目としては人気がありません。好き嫌いにかかわらず、私たちは政治や経済と無関係には生きられません。「社会人になると政経で学んだ憲法や経済の知識の有難味が色々な場面でも生かせるよ」と近視眼になりがちな受験生を日々励ましています。重い障害を抱えた息子を育てながら働き続けている経験が裏付けになっています。

社会福祉に携わるものにとっては基本的人権のなかでも社会権が特に重要です。日本国憲法第25条1項にある生存権を実現させるために2項で国が社会保障制度の内容を充実させることに努力するよう求めています。何もしなければ弱肉強食が当たり前になってしまいう資本主義の下で必要な制度です。そもそも自己責任論ではどうにも解決できない問題に対してセイフティネットは国民の拠り所になるのです。

世界で初めて社会権を含んだワイマール憲法は当時としては画期的なものでした。そんな素晴らしい憲法の下であっても合法的にナチスが政権を奪取しました。国民の不満が高まったり経済が疲弊すると国民が自らの基本的人権を軽視することになるのに注意しなければなりません。

今年は特にセクハラ、パワハラのニュースが目につきます。ハラスメントに泣き寝入りしていた被害者は今までに大勢いたと思いますし、仮に異議申し立てをしても社会の対応が冷ややかでした。不条理を嘆いているだけではだめだ。訴えて現状を変えなければと気づいたのはアメリカの※Me too運動や※LGBTの可視化など人権を取り巻く状況の変化と無関係ではありません。

そもそも人権は国家と国民の関係に限られていました。しかし現代は上司と部下、コーチと選手のような私人間(しじんかん)であっても強い立場にあるものは弱い立場にあるものに配慮することが求められています。

ます。これが常識になればハラスメントは減っていくことでしょう。

障がい者と介助者の関係はどうでしょう。介助者に悪意がなくても配慮が欠けた行為が障がい者にとって長い苦痛を強いることがありますし、逆に障害者が未熟な介助者を追いつめたり、性的ないやがらせをするケースもあります。双方にとって時間がかかろうとも行動が変わるような解決策を探していく必要があります。

また、人権が侵害されやすい障がい者の側に立ち、法律や制度に対して矛盾や問題点を代弁しなければなりません。お上から制度が降ってくるのを口を開けて待っているのではなく、福祉の最前線にいる職員は自分の考えを発信して欲しい。民主主義国家の国民は自らの望む国家を作る責任を担っているのです。

※Me too運動とは…#Me too (ミートゥー) は、「私 (me) も (too)」を意味する英語にハッシュタグ (#) を付

したSNS用語。セクシャルハラスメントや性的暴行の被害体験を告白・共有する際にソーシヤル・ネットワーキング・サービスで使用される。

※LGBTとは…性的少数者の総称。「レズビアン(女性同性愛者)」、「ゲイ(男性同性愛者)」、「バイセクシユアル(両性愛者)」、「トランスジェンダー(性別越境、性別違和)の頭文字をとって名付けられた。

忘れちゃいけない日本国憲法第99条

憲法が最高法規であることを確保するために天皇、大臣を含むすべての公務員に憲法擁護義務を課しています。国家は秩序の維持を図るために軍隊や警察だけでなく、刑罰権や徴税権まで強大な権力を持っています。だから憲法は国民の基本的人権を明示し、権力を持った為政者によってこれらの権利を奪われることがないように宣言したものです。国民には勤労、教育、納税の義務以外はなく、守るべきものは法律だけであります。立憲主義の考え方から日本国憲法の内容に矛盾する法律は存在できません。たとえば、日本国憲法第18条がありますから戦前の国家総動員法や徴兵制はありません。

平成30年5月26日に行われた全職員研修の第2部「平和をつくるために」今、憲法を考える」のテーマについて最初にNHKスペシヤル「憲法70年 平和国家はこうして生まれた」を観た後、講師に名古屋第一法律事務所の中川匡亮弁護士を招き、日本国憲法第9条の改憲の危うさのお話をいただきました。

8人の職員の感想をご覧ください。

■生活支援部 伊藤 沙樹

今回の話を聞いて特に感じたのは、無知ということは怖いということです。知らないとかみな言葉に気づかない内に流されてしまふ。本当の目的がどういったものなのか、それを理解した上で自分の判断をしていきたいです。

昔の国民たちが願った平和な国は、時代が変わっても同じだと思います。幸せに生きて

いきたいという願いはどの国の人も同じはずなのに、相容れないもどかしさを感じました。いろいろな価値観、環境の人々と共存することは簡単ではないかもしれませんが、できないことではないと信じてたいです。

■ 生活支援部 峯 彩奈

自分の両親や友人周囲の人達が戦争へ行かなくてもいい状況があたり前だと感じる事ができているのは、この憲法（9条）のおかげであると思っているので、もともと改憲には反対でした。

今回の話を聞き、漠然とした考えからより深く、日本はどう変わっていくのか、という事を考えることができました。聞こえの良い言葉も、本当の意味を知らずにいるのはとても怖いことだと思いました。

■ 生活支援部 稲垣 ゆき奈

テレビ等で、よく9条を変えてはいけない、守ろうと言う言葉を耳にする機会はありません。

ですが、私はいまいち憲法を理解していないため、改正されたいって思ってしまうのかあまり分かっていませんでした。しかし、憲法そのものや、改正後にどうなってしまうか等を知っておかないと国家にとって都合のいいように変えられてしまうのではと危機感を感じました。

良さそうな言葉だけを国民に伝えても、実際にやろうとしていることと違えば意味がないのはもちろんですが、その良さそうな言葉を信じてしまうようなことにならないためにも1人1人が憲法について知っていく必要性を感じました。

■ 生活支援部 増田 真衣子

情報がたやすく手に入る社会となり、私たちが今、何を問題と捉えていけばいいのか、見えづらい世の中になってしまっていると感じます。TVやSNSでは森友問題やセクハラ疑惑等が大きく取り上げられ、相手を責める討論が日々流れています。

しかし、日本国憲法が施行された時のように党派を越えた議論が求められていると思いました。戦争の後、過ちが二度と起きないように、平和を願う国民たちのために生まれた9条を私たちが1人ひとり知らないといけないと思いました。

「何のために憲法を改定しようとしているのか」講師が問いかけた言葉を私自身はじめ、SNSや分かりやすい情報で捉えている世代の方にきちんと理解できる場を作りたいと思います。

■ 通所部 麻生 早紀

2015年の安保法制の強行採決の時に何が危険なのか、今後どのようなおそれがあるのか、色々勉強したはずなのに、喉元過ぎれば熱さ忘れるかのように無関心になっていることに気付かされました。

戦争を始めるには仮想敵国を作って「国を守る」と国民を煽動すればよいどこかで聞いたことがあります。国を守りたい戦争

をしたいと国民は誰も思っていないのに、なぜそうなるってしまうのか今日の話で少し理解できたように感じます。

最近知った小牧空港の自衛隊基地にステルス戦闘機が配備され、世界中の新ステルス戦闘機の整備をそこで三菱重工が行うという話も、戦争の足音が聴こえるようで怖くなりました。憲法9条を守っていく大切さを他の人にも伝えられたらと思います。

■ 通所部 大西 哲平

自国を守るということはとても重要かつ難しい課題であり、軍事的なこととなれば尚のことであると思います。国民にとっても戦争経験者がほばいない時代で漠然と戦争はいけないと思っている方も多いと思います。今回のお話を聞いて、改憲加憲がどのように戦争につながる危険性があるのか、それを知った上で今後の選挙に参加しなければいけないと思いました。

色々な思惑があったとは思いますが、憲法

9条を作った人々がこだわった「平和」や戦争の「永久」放棄という言葉を重ね受け止めたいと思いました。

■ 通所部 北島 ゆり香

研修の始めに観たドキュメント番組「憲法70年 平和国家はこうして生まれた」の中にある議員さんから『“戦争放棄”は泣き寝入りしているように聞こえるので“平和を愛好する”』という言葉聞いて、結局は聞こえ方の問題？と思いました。が、「平和」の意味にはこれまでおこなってきた戦争の反省や平和維持を願って作られたということを知れました。

ただ、このような過去のあやまちを二度とおこさないように平和を作った人がいるのに、今の日本は同じことをしようとしていると感じました。「他国の脅威」ということを作っているのはマスコミやネットから発信され、それを使っている人や見ている人へ思いつまらせていると感じました。

■ 通所部 坪内 美紀

9条の改憲について、自衛隊が何をするのか明記しないことで都合の良い解釈をさせようとしていたり、後法は前法に優先するということを知らなかったのも、今回の講義で知ることが出来て良かったです。

選挙には行っているが、きちんと事前に調べず上辺だけの政策で選んできてしまっていたので、どの党がどういった政策をしていたのか、その裏の意味まで知った上で選べるようにしたいと思いました。ニュースからだけでは知ることが出来ないことを知ることが出来、とても勉強になりました。



支援の担い手を求めて

生活支援部 溝口 愛



エゼル福祉会では、現在12名の方の地域での自立生活の支援をしており、（グループホーム入居者5名、地域での単身生活7名）それに加え、親御さんと生活されている方への居宅介護や余暇支援等のヘルパー派遣も行っています。親御さんも歳を重ねられ、家庭内の介助力は年々低下してきており、ご本人が実家に帰省しても、家族では介助できないことが増えてきました。そのため、自立生

活している方たちの実家帰省日は年々少なくなり、その分ヘルパー派遣の日数は増えています。また、親御さんの元で生活されている方も入浴介助やショートステイのニーズがとても大きく、家庭内での介助では限界がきていると感じます。このように生活支援に対するニーズは増すばかりで、これに对应していくためのマンパワーの確保が大きな課題です。

しかしご本人や親御さんのニーズと反するように支援の担い手は減少するばかりです。特にこれまでコンビニハウスの活動を支えてくれていた学生ヘルパーの減少が顕著です。女性の学生ヘルパーに至っては、これ

まで活動してきてくれた学生たちがましまつて卒業してしまい、昨年度比マイナス10人というとてもショックな数字になっています。しかし、一旦自立生活を引き受けた以上、実家への帰省日を増やしてください、という無責任なことはそう簡単には言えません。何とか今提供している分の支援量を維持（本来なら拡大）できる手立てを考えなくてはいいません。

エゼル福祉会では、前身のNPO法人コンビニの会の時代からヘルパー養成講座を毎年開き、受講生をヘルパー活動に誘い、人材確保をしてきました。しかし数年前から受講

生の数は激減し、毎年卒業とともに去っていく学生ヘルパーの数を埋めることが困難になっていました。このような状況にもかかわらず、私たちの人材確保に対する意識や危機

感は低いままでした。利用者さんの生活を引き受けるというのは職員だけでできるものではなく、その担い手を増やしていくことが不可欠です。そしてその責任が管理職にはあるということを実感しています。その結果、昨年の夏開講を予定していたヘルパー講座は申込者が0人となり、中止せざるを得ませんでした。受講生がいなければヘルパーの増員も当然見込めません。このままでは利用者さん

の生活も支えられないし、無理して支えようとすれば今度は職員がつぶれてしまう」人材確保が自分たちに課せられた大きな課題であることを痛感しました。

まずはどうやって学生さんとの接点をつくるか？通所部の職員が知り合いの大学の先生に連絡をして、ゼミで宣伝の時間を提供してもらいました。法人の紹介や、どんな利用者さんがいて、どんな支援をしているのか？直接学生さんたちに話しをする機会を得て、ボランティア企画への誘いかけやヘルパー講座の宣伝も行いました。興味を持ってくれた学生が数名ボランティア企画に参加

してくれ、その後ヘルパーとしても活動してくれるようになりました。しかしまだ十分な数を充足することはできず、今年2月開講のヘルパー講座の受講生も思うように集めることはできませんでした。

何回か大学に出向く中で、こういったことに興味がある学生は早い時期に資格を取得し、既に他法人でヘルパー活動をしているということもわかりました。そうすると狙い目は大学に入学したての1年生です！ヘルパー講座の開講時期もこれまでは夏休みにしていましたが、



今年度は早めの6月に設定し、具体的な日にちが決まった状態で5月にゼミでの宣伝活動を行いました。

このような作戦が功を奏してか、6月開講のヘルパー講座には13名の受講生を集めることができました。受講生の方は、これまで障害のある人に接したことがない人がほとんどでしたが、障害当事者として講義に参加した利用者さんの話に興味深そうに耳を傾けてくれました。ヘルパー講座の修了式後、数名の受講生が「ヘルパーとして活動したいです」と申し出てくれました。また、活動を始めるかどうかを迷っている学生たちと、グループホームなどへ見学に来てみる

約束をとりつけることができました。

ここまでの話しだと失敗からの成功例のように聞こえるかもしれませんが、受講生さんたちがヘルパーとしての活動を始めるのはまだこれからことです。人材確保のスタートラインにやっと立った段階だと思っています。実際に活動をして「利用者さんのことをもっと知りたい」「難しいこともあるけど、楽しいな」と思ってもらえるかどうか？これからは育成へと繋げていかなくはいけません。

今後も利用者さんのニーズはなくなることはありません。増え続けていく一方です。その担い手の確保と育成はエゼル福祉会だ

けでなく福祉業界全体が抱えている大きな課題です。

私たち職員は、利用者さんと接していく中で、前よりその人のことがわかるようになってきたという喜びや、誰かの役に立っているという思いで自分たち自身も変化し、成長させてもらいます。支えているようで、実は私たちも利用者さんに支えられていることに気が付きます。この仕事はそんな素敵な仕事だということをもっとたくさんの人に知ってもらい、支援の輪を広げていきたいです。



《活動状況》

5月

- 7日 ハローワーク就職相談会 (榊原)
- 10.15日 同朋大学訪問 (溝口・佐藤)
- 16.17日 法人監査
- 17日 あいされん実行委員会 (大川)
- 17日 あいされん総会 (佐藤・原)
- 18日 生活支援事業所連絡会 (榊原)
- 22日 会報発送
- 22日 自立支援協議会全体会 (寺澤・有満・大西)
- 23.24日 きょうされん総会 東京 (佐藤・原)
- 24日 WILL 親の会
- 24日 工程会議
- 25日 理事会
- 26日 全職員研修
- 27日 中小田井側溝掃除 (榊原)
- 29日 自立支援協議会相談支援部会 (有満)
- 30日 名障連総会 (寺澤)
- 31日 設立委員会 (溝口)

6月

- 2日 評議員会
- 3日 ヘルパー学習会
- 5日 会報会議
- 7日 サロンうたさと打ち合わせ
- 12日 名古屋特別支援学校見学 (大西)
- 12日 NPO コンビニの会理事会
- 14.15日 きょうされん利用者部会(佐藤・原)
- 15日 理事会
- 15日 自立支援協議会世話人会 (寺沢)
- 16.23.30日 重度訪問介護従事者養成講座
- 22日 名古屋市出前トーク
(榊原・渥美・溝口)
- 26日 職員調理研修
(大川・久野・増田・峯・山下)
- 28日 WILL 親の会
- 29日 廣瀬先生ケースワーク会議
- 30日 就職フェア (溝口・大西)

購読料お振込みへの御礼

先号の会報購読料へのご協力に、早速たくさんの皆様からお振込みを頂きました。

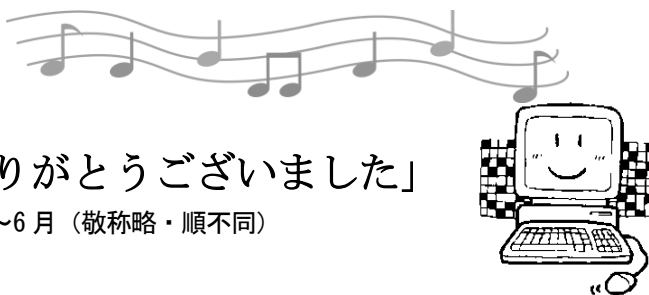
7月6日現在で、84 人の方から、振込金額合計428,000円の振込みがありましたことをご報告いたします。

2口以上を、振り込んでくださった方が多くいらしたことに深く感謝し、御礼を申し上げます。これからも、障害者福祉のみならず、様々な社会問題を提起し、多くの皆様にご購読いただけるよう、努力していく所存です。誠にありがとうございました。

事務局コーナー

「ご協力ありがとうございました」

5月～6月（敬称略・順不同）



★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方

富永典子 辻新聞店 柳野友美
岩田和枝 松岡香代 伊藤大介
伊奈晶子 中根勝見 藤原功理
トクメイ 堀部裕子 近藤直子
中瀬恵美子 朝比奈幸生 梅村勝
岡本真理・美知子 わしの恵子
中島温子 塩澤しのか

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

石原まち 辻本道子 高塚朱美
東名メンテナンス

(WILL)

浅井宏紀 塩澤しのか
竹内まりや 丹羽恵子
佐藤慶太 増田 修
松本浩希 麻生早紀
井上祐子

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

石原正寅 青木政治 土田京加
辻本道子 黒田隆広 林 和子
高塚朱美 藤本菜見 大森 信
大瀧宥乃 楠村ゆき 石原まち
奥村 修 星野恭兵 鈴木千春
寺西 剛 水谷友香 水野裕哉
伊藤翔磨 松本浩希 鬼頭優菜
酒井まみ子 藤本由紀子

茂手木利典 桑原諸彰

(WILL)

須田たみ子

★ 会報発送ボランティア

佐藤美紀子 半田素子
吉田嘉子 丹羽正子



平成30年度赤い羽根共同募金助成事業完了のお知らせ

このたび社会福祉法人愛知県共同募金会、および日本労働組合総連合会愛知県連合会（連合愛知）から、平成30年度配分金の交付を受けて、下記の事業を完了いたしました。ここに事業完了のご報告を申し上げますと共に、募金にご協力いただいた皆様の善意に心より感謝申し上げます。



整備車両 トヨタ/シエンタ（1500cc・7人乗り）
 事業費総額 1,890,844 円
 助成金額 1,200,000 円
 施設名 パルハウス
 納車日 平成30年6月26日



【銀行口座】三菱UFJ銀行 小田井支店 店番 238（普） 口座番号 1440108

特定非営利活動法人 コンビニの会

【郵便振替口座】番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

〒452-0822 名古屋市西区中小田井 2-431

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

コンビニの会

理事 宮川 優子

URL <http://ezeru.sakura.ne.jp/>

E-mail convini@beach.ocn.ne.jp